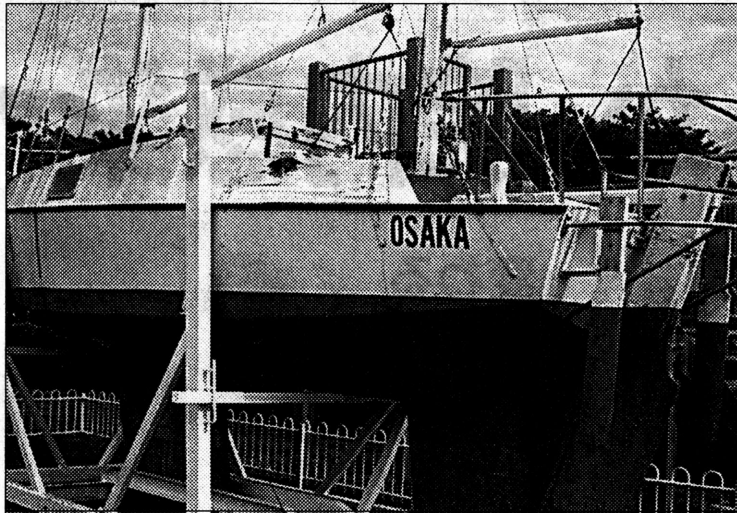


屋外展示27年「痛ましい」…本紙投書が契機



27年間、屋外展示され傷みが目立ってきた信天翁二世号一万博記念公園で

世界一周した後、屋外
展示されていたヨット
「信天翁二世号」の傷み
が目立ち、見た人が「世界
に誇る栄光のヨットが痛
ましい」と朝日新聞へ投

世界一周「信天翁二世号」

栄光のヨット 保存へ上げ潮

あす田尻で発起人会

書した。これをきっかけに、修理保存に向けた活動が始まった。14日、田尻町の田尻マリーナにヨット仲間の発起人20人が集まり「あほづりの会」設立パーティーを開く。ヨットは長さ6・4坪。当時22歳の青木洋さん(53)が71年6月、堺市の石津港を1人で出帆、南米ホーン岬の日本人単独初通過を記録して約3年後に帰港した。青木さんが金具まで手作りし、世界最小の船での世界一周としてギネスブックに載った。75年7月、日本万国博覧会記念協会に寄贈され、吹田市の万博記念公園に展示されてきた。その後27年。風雨にさらされ、デッキや船体下部のキール、かじなど所

々が腐ってきた。近くに住む関西大名誉教授上田昭三さん(74)が朝日新聞の声欄に「これが世界に誇れる栄光の記録をつくった、あのヨットかと痛ましい」と投稿。今年3月5日付で掲載され、反響を呼んだ。ヨット好きの人たちが動き出し、田尻ヨットクラブ(田中裕樹会長)は見学会を催した。補修には数百万円かかると思われる。万博

記念協会は「みなさんの話を聞いて保存方法などを検討したい」という。発起人会は、14日午前10時から、田尻町りんくろポート北の青木ヨットスクール(0724・658192)で。